

「非核平和学習会に参加して」

～私たちが学習会で学んだことや感じたことなどをお伝えします～

非核平和学習会に参加して

花巻小学校 6年 千葉 広翔 さん

ぼくが、この非核平和学習会に参加するきっかけになったのは、学校でこの平和学習会についてのプリントがきて、ぼくは歴史は好きだけど、原爆や核兵器については全然知らないし、どれだけの人が亡くなったとか、原爆の怖さが分からなかったのが今回、原爆について学びたいと思い、この平和学習会に参加しました。

実際に、非核学習平和会に参加して、思ったことがたくさんあります。資料館では、原爆の怖さや、被爆者の方や、四千度の熱で大やけどしてしまった人の姿を見ました。落とされたとき、どれだけつらかったかが分かり、本当に心苦しかったです。二日目の式典では、参加する人の多さにおどろきました。戦争のことでこれほどの人が集まるということは、よっぽど大きな戦争で、人の記憶に残るものなんだな、と思いました。

ぼくたちは参加する前、花巻空襲について花巻市博物館で学びました。場所は違うけれど、爆弾が落とされたということ、犠牲者のほとんどが民間人だったということに関してなど、たくさんの共通点があり、同じように爆弾が落とされているから、広島の場合は、他人事じゃなくて、みじかなことなのでこれからも、この学習会で学んだことを、忘れずに、伝えていきたいと思います。

原爆がどれくらい熱いか、どれくらいの爆風がとんでくるかはけいけんがないから分からないけれど、簡単に人の命を一瞬にしてうばってしまうものです。

今、世界中で起こっている戦争を、なくすために、二度と広島のような原爆が落とされないように、ぼくはこれからも原爆のこわさ、つらさを伝えていきたいです。

原爆がない未来を願っています。

広島で学んだこと

湯本小学校 5年 おいかわ あやか さん

わたしが「非核平和学習会」で広島に行き学んだことと、印象に残ったことが四つあります。一つ目は、原爆ドームです。今年で戦後八十年になり時代も変わって広島の街にはビルやマンションが建ち並び豊かになっていますが、そんな街に二度と繰り返してはならない歴史を感じさせるような建物でした。

二つ目は、原爆資料館です。そこでは原爆の恐ろしさについて学んできました。展示されている物の中には陰惨なものばかりでした。特に被爆者の臓器など衣服がありました。どれも当時の惨状に衝撃を受けました。

三つ目は、平和記念公園です。原爆死没者慰霊碑と祈りの泉が特に印象に残りました。理由は慰霊碑には「安らかに眠ってください 過ちは繰り返しませぬから」とかいてあったからです。これは、原爆の恐ろしさを今の世代や原爆をあまり知らない・経験したことのない人々に向けてのメッセージにもなっていると思います。次に祈りの泉です。この泉は、「水を、水を」と言いながら亡くなった人の御霊に捧げて作られました。当時焼け野原で水一滴もなかったこの場所は今、大きな泉へと変わっています。その泉からは今でも、噴水が空高く上がっています。

四つ目は、平和の灯です。それは、千九百六十四年に作られた「核兵器廃絶の象徴」でその灯は核兵器が地球上から消滅するまで燃やし続けられます。

この「非核平和学習」を通してわたしは、改めて戦争の恐ろしさについて学ぶことができました。そして今もなお、地球上には約九千六百発の核兵器があり、戦争も続いているのでいつ核戦争に発展してもおかしくありません。そこでわたし達は核兵器が使われることを絶対に阻止しなければいけません。同じ過ちを繰り返さない為にこれからも歴史を勉強していきたいと思います。また機会があれば広島、長崎に行きたいです。

非核平和学習会で学んだこと

八幡小学校 6年 ^{はれやま}晴山 ^{みこと}海琴 さん

私が非核平和学習会に参加した理由は、世界の中では今でも戦争をしている国があります。が私たちは平和に暮らしています。戦争を経験したことがないからこそ原爆の怖さなどを知り、平和について考えたいと思ったからです。

私たちは実際に原爆ドームを見てきました。テレビなどでしか原爆ドームを見たことがなく、いざ目の前にしてみるとテレビでは感じられない怖さが伝わってきました。原爆ドームの屋根は高温の熱のせいで鉄の骨組みしか残っていませんでした。近くにはがれきが沢山落ちていました。原爆はおそろしいと改めて実感しました。

記念資料館には同じ年齢の子たちの背中をやけどしたり、髪が抜けている写真がありました。今でも後遺症でくるしんでいる人たちがいます。原爆が落とされると怖いことになるんだと思いました。まだ長く生きたかったと思います。

私たちは平和記念式典にも参列しました。平和への誓いでは「どんなに時がながれても、あの悲劇を風化させず、記録として被爆者の声を次の世代へ語り継いでいく使命が私たちにはあります。」と言っていました。辛い思いをした人々が思い出したくないのに思い出して伝えてくれたこと、直接会って感謝したいです。「あの日の出来事を広島を、二度と繰り返さないために、私たちが、被爆者の方々の思いを語り継ぎ、一人一人の声を紡ぎながら、平和を創り上げていきます。」という誓いをしたからには広島市民、広島県民ではなくても平和にする努力をしていきたいと思います。

平和記念公園には平和の鐘や沢山の折りづる、平和の灯、平和の池、平和の石塚などがありこれにはほとんどに平和という言葉があるので平和がずっと続いてほしいという願いが強いのだと思いました。

最後に、一発の原爆が落とされたことによってあたりまえだった日常があたりまえじゃなくなってしまうと原爆はすごい威力だと思いました。もう二度と戦争がおこらずに今の平和がずっと続いてほしいと思います。

非核平和学習会に参加して

南城小学校 5年 ^{すがわら}菅原 ^{えいた}瑛太 さん

ぼくは、昔戦争があったということしか知らなかったので、今回の学習会で詳しく知るいい機会と思い参加することにしました。ぼくが広島に行き印象に残ったことは、三つあります。

一つ目は、原爆ドームです。実際に見ると、当時のまま残されており、原爆の被害が相当大きかったのが分かりました。元は広島産業奨励館という立派な建物でしたが、「たった一発の爆弾であんなにボロボロになってしまうなんて」と核兵器の恐ろしさを実感しました。

二つ目は、人影の石です。これは、広島平和記念資料館で見たもので、座っていた人が熱線を浴びて即死し、影だけ残ったというものです。そのくらい威力が強い核兵器が広島に落ちたと思うと、心が痛くなり声が出ませんでした。

三つ目は、燃料会館で起きた話です。当時大勢の人が働いており、その中の野村英三さんは忘れ物があることに気付き、地下室に戻った際、爆弾が投下されました。地下室は、厚く丈夫な造りの為、奇跡的に生きのびることが出来たそうです。ぼくは生き残れて良かったと思いましたが、英三さんの立場になったとき「自分だけ生き残ってしまったこと」「死んだ家族・友達に会えない悲しさ」など、悔やまれることが多かったのかもしれないと思いました。

ぼくは、非核平和学習会を通して、普通の日常を送っていた人が、戦争で投下された原爆により、熱線を浴びて身体が熱く苦しみながら亡くなったり、未だに後遺症に苦しむ人がいることなど、戦争や原爆の恐ろしさや悲惨さ、さらに生き残る苦しさがあるということも知りました。ぼくは、戦争を起こす人の気持ちがわかりません。戦争で死者が出て苦しむ人がいるということを知りながら、なぜ起こすのでしょうか。

ぼくの好きな宮沢賢治さんの言葉に「世界がぜんたい幸福になるまでは個人の幸福はあり得ない」というものがあります。ぼくは、この言葉のように、世界中の人が自分のことだけでなく、他の人をほんの少しでも思いやる気持ちを持てば、仲良く笑って手を繋ぎ、争いのない世界になると信じています。

平和学習会に参加して思ったこと

大迫小学校 5年 松坂 優凜 さん

8月5日、6日に平和学習会で広島に行ってきました。そこで私が思った事を伝えたいと思います。

まずは、かく兵器のこわさです。かく兵器という一つのばくだんは、いっしゅんで全てを無くしてしまうおそろしいものです。日本はそのばくだんを落とされたゆいいつの国なのです。

かく兵器は使ってはいけない。私が思う使ってはいけないと思う理由は二つあります。

一つ目は、大ぜいの人たちがなくなってしまうからです。

二つ目は、人だけではなく、多くの町がなくなってしまうからです。人や町だけではなく、もの、町に住んでいた人の思い出までなくなってしまう。

そして悲しいことに、関係のない人達がひ害にあってしまっていました。国同士の争いなのに関係のない人達ばかりされてしまい、とてもいやな気持ちになりました。

最後に、戦争をやめてほしいと、強く思いました。国と国が争っても良い事がないと思います。人どうしの小さなもめ事から国をまきこむなんていやな事だから戦争をやめて、みんなが楽しく、平和がいいなと思いました。

平和学習会に行って学んだ事はたくさんありました。もっとたくさんの人や友達に戦争をやってはいけないという理由、かく兵器のおそろしさを知ってもらいたいです。

同じ過ちをくり返さないために

桜台小学校 6年 寺林 毅琉^{てらばやし たける}さん

僕は広島へ行き、戦争や原爆の悲惨さを知りとても胸が苦しくなりました。

8月5日、6日に広島へ行き、平和記念公園を周ったり、平和祈念式典にも参列しました。その中で特に心に残ったことが2つあります。

1つ目は平和記念資料館に行き、原爆を受けた当時の様子などを見て、その怖さを感じたことです。原爆を受けた当時の人は、全身にやけどを負い、皮膚がたれさがり、真っ黒になっていました。さらに放射能を受けた人はお腹にガスがたまり、破裂して亡くなったそうです。このことを写真で見たとき、原爆は人を傷つけることしかできない、意味のない物だと思いました。ガイドの方から一発の爆弾で十四万もの人が亡くなったと聞いたときは、恐怖で鳥肌が立ちました。

2つ目は平和祈念式典で自分と同じ学年の人が発表した平和への誓いの内容です。その誓いの中での「被爆者の方々の思いを語り継ぎ、一人一人の声を紡ぎながら平和を創り上げていきます。」という部分が強く心にひびきました。この言葉を聞いて、自分も式典に参列した一人として、平和について関心を持ち考えることが大切だと思いました。

僕は今まで戦争にあまり関心を持っていなかったけれど、広島から帰ってきてからは戦争に関するテレビや本を積極的に見るようになりました。広島に行って原爆の怖さが分かり、平和の尊さを知ることができました。

今もたくさんの核兵器が世界の国々で保有されています。広島でおきたことと同じ過ちをくり返さないために、非核平和学習会に参加して学んだことや、改めて知ったことを家族や友達に伝えていきたいです。そしてこの経験は大人になっても忘れないでいたいと思います。

広島から学んだ平和の尊さ

若葉小学校 6年 ^{かみいさか}上飯坂 ^{あゆみ}鮎美 さん

私は八月五、六日と二日間広島へ行き、非核平和学習会に参加してきました。私は、今まで戦争は自分とはあまり関係なく、とても昔にあった出来事だと思っていました。しかし、祖母から戦時中の話を聞いたり、今現在戦争をしている国があるというニュースを見ていて、自分と全く関係のないものではないのかもしれないと思いました。そして二度と日本で戦争が起きないために、自分には何ができるのか考えたく、この学習会に参加したいと思いました。

広島の平和記念公園や資料館の見学では、原爆による被害の大きさに怖さを感じました。骨組みだけになってしまった原爆ドームや、原爆の熱線によって黒くなったお弁当箱、黒く曲がった三輪車や自転車などを見て、そこにいた人たちはどんなに苦しかったか想像しただけで怖くて悲しい気持ちになりました。その見学の中で私は黒い雨の跡が印象に残りました。黒い雨とは、原爆が投下された後に降ったもので、放射線物質が含まれていましたが、原爆で傷ついた人たちは、咽の乾きを潤すためにその雨粒を飲んだそうです。資料館には黒い雨の跡が、服やかべにはっきりと残っていました。原爆の熱によって皮ふがはがれるほどのやけどを負った人や、爆風によって飛ばされたり、建物の下じきになってしまった人、黒い雨に打たれた人など、一瞬にして多くの人が傷つき亡くなったことを知り、原爆は絶対に二度と使ってはならないと、改めて思いました。

広島に行って、原爆の恐ろしさや怖さなどを実際に見聞きし、今こうして平和な日本で暮らしていることがどれだけ幸せなことなのか気付くことができました。そしてこの八十年間、日本はどの国とも戦争をしませんでした。それは、日本人が戦争や原爆の悲惨さを身にしみているからだと思います。私も平和の尊さをこれからの人に伝えていける人になりたいです。

広島に行き思ったこと、感じたこと

石鳥谷小学校 6年 ^{みまた}三又 ぼたん さん

8月5日、6日に非核平和学習で広島に行ってきました。そこで私が学んだことは二つあります。

一つ目は、核兵器のおそろしさです。核兵器という一つのばくだんだけで、大きなほんいが被害を受け、何万人もの人の命がいっしゅんにしてうばわれました。

二つ目は、核兵器を使ってはいけないということです。なぜなら、核兵器はいっしゅんにして何万人もの人の命がなくなってしまうこと、そして、いくつもの町が消され、大切にしてきた物、町に住んでいた人の思い出までも、すべて消されてしまうからです。

私は、平和記念資料館で見てきた物すべてにしょうげきを受けました。

戦争では、大人、お年寄り、子供、関係なく殺されていました。戦争が始まった日の八月六日から八月十四日まで、おびえて暮らさなければならなかった事や「行ってきました。」と言って帰ってこない家族や母親をなくした子供など、とても悲しいことがあった事を知りました。戦争は絶対にやってはいけないと思いました。ですが、今、戦争をしている国があります。とても悲しい事です。日本には、「戦争をしない。」という憲法があります。この憲法が世界に広がり、戦争がない平和な世界になってほしいと思いました。

今後、私にできる事は、とても少ないとは思いますが、広島に行って見てきたことや学んだことをこれからも忘れなようにしていきたいと思いました。そして、たくさんの人に学んだことを伝えていきたいと思いました。

二度とこのあやまちを起こしてほしくないです。世界の人々が戦争をやってはいけないと思える世界にしてほしいです。

非核平和学習会に行って感じたこと

東和小学校 5年 おぼら はつね さん

ぼくは、初めて広島県に行きました。最初はほとんど見たことない人ばかりできんちようしてしまいましたが新幹線の中ですぐに仲良くなれました。

一日目は、原爆ドームと広島平和記念資料館を見学しました。原爆ドームの見学の前に世界遺産の石にすわりました。その石は原爆ドームの門でした。原爆の時にとんできたそうです。原爆を広島県の中心に落とそうとしたのですが原爆ドームのすぐ後ろにある病院にずれたそうです。原爆には主に三つのこうかがあります。一つ目は、爆風、二つ目は、三千～四千にもなるねっせん、三つ目は、ほうしゃのうを帯びた黒い雨です。原爆ドームは爆風はしのげられましたがねっせんにはたえきれず上の方がとけて骨組になっていました。原爆ドームは今にもくずれそうだったので支柱が立っていました。

原爆ドームの近くの公園には平和の時計とうや平和のかねがありました。平和の時計とうは毎朝原爆が落とされた八時十五分に音が鳴ります。平和のかねには世界地図がかかれており鳴らすことができました。

今でも原爆を経験して病気にかかり、苦しんでいる人々がいます。そんな人々のために広島市では二百五十万羽の折りづるが折られました。

原爆ドームと61年間消えてない平和の灯と高さ10mになるふん水の平和のいずみは直線になっています。それを平和のじく線といいます。

かくへいきは世界で約一万ぱつあります。アメリカ、ロシア。インド、イスラエル、イギリス、フランス、北ちょうせん、中国、パキスタンがしょじしています。

ぼくは、かくへいきを作る意味、作って何の得があるのか不思議に思います。かくへいきのない世界になるように心から願います。